

法華經の法門をきくにつけて  
 なおなお信心をはげむを、まこと  
 の道心者とは申すなり。天台  
 云わく「從藍而青（藍よりして、  
 しかも青し）」云々。この釈の心  
 は、あいは葉のときよりも、な  
 おそむればいよいよあおし。法  
 華經はあいのごとし、修行のふ  
 かきはいよいよあおきがごとし。

(御書新版1834ページ・御書全集1505ページ)

### 通解

法華經の法門を聞くたびに、ますます信心に励んでいく人を、真の求道の人というのである。

天台は「青は藍から出て、藍よりも青い」と述べている。この言葉の意味は、植物の藍は、その葉からとった染料で重ねて染めれば、葉の時よりも、ますます青みが深まるということである。法華經は藍のようなもので、修行が深まるのは、ますます青くなるようなものである。

## 「いよいよ」の決意で前進を！

### よくわかる解説

みなさんこんにちは、サンです！ 夏休みが明けて新学期のスタートだね。最高の学校生活を送るために、今回も御書を研さんしていこう！

今回学ぶ「上野殿後家尼御返事」は、駿河国（現在の静岡県中央部）の門下であり、南条時光の母である上野尼御前に送られたお手紙です。上野尼の夫・南条兵衛七郎は病で亡くなりました。当時、家の跡継ぎである時光は7歳、末の息子はまだ胎内にいました。大聖人は本抄を通して、悲しみをこらえ、家族を守り育てる上野尼を、包み込むように励まされています。

大聖人は、「なおなお信心をはげむを、まことの道心者とは申すなり」と仰せです。仏法は、絶えず「信心を深めよう」「勤行・唱題に励もう」と、「いよいよ」の決意で求道心を燃やし、実践し続けることが大切です。

大聖人は、信心を深めることの例えとして、天台大師の書に出る「從藍而青」の言葉を用いられます。

藍の葉を使った「藍染め」は、何度も染め重ねることで、染料の藍の葉よりも、深く鮮やかな青色に染まります。私たちの日々の実践も同じです。仏法の教えを学び、勤行・唱題を続けることで、どんなことにも負けない境涯を開いていけるのです。

みんなも部活や勉強など、いろいろなことに挑戦しているよね。時には、やる気が起きないこともあると思う。それでも、「少しずつ前に進もう」と再び決意し、一歩踏み出すこと大切なんだ。そうした地道な積み重ねが、自分を大きく成長させるんだ。その原動力が信心だよ。

池田先生は、「日々、自身の願いや目標に向かって、実践に励み、努力していくからこそ、祈りが強くなり、信心が深まるのです」とつぶっています。

また「從藍而青」には、学びや行動を重ねることで、後継者である弟子が、師匠を超えていくという意味もあります。「後継」の使命を胸に、「いよいよ」の信心で、目標に向かって努力し続けよう！